

阪神・淡路大震災から20年を迎え、災害に備えるにあたり、「耐震化」「室内安全対策」「備蓄」「避難」の4つを重点目標とし、改めて自らの命は自ら守るための美談活動に県民総参加で取り組みましょう。

耐震化

阪神・淡路大震災の犠牲者の約8割は、住宅の倒壊等による圧死・窒息死でした。あなたや家族のいのちを守るためにも、昭和56年以前（新耐震基準適用前）に建てられた住宅は耐震診断と必要に応じた耐震改修を行いましょう。

▼わが家の安全性をチェックする

簡単な耐震チェックでわが家を自己診断してみましょう。ただし、あくまでも目安ですので、一つでも気になる項目があれば専門家の診断を受けてください。

チェック1 建てられた年代

昭和56年に建築基準法が改正され、耐震基準が強化されました。それ以前に建てられたものは要注意です。

チェック2 過去の災害履歴

過去に地震、風水害、火災などに見舞われた場合、外見からは分からないダメージを受けている可能性があります。

チェック3 地盤

地震のときには、地盤が軟弱であるほど揺れが大きくなります。埋め立て地、低湿地、造成で盛り土した場所、液状化の可能性がある砂質地盤などは要注意です。

チェック4 建物の基礎

基礎は建物と一体となって揺れに抵抗します。木造住宅の場合、鉄筋コンクリート造りの基礎で、建物としっかり一体になっているれば強い基礎といえます。

チェック5 建物の壁

木造住宅は、壁の量が多いほど揺れに強いと考えられ、建物の四隅に程よく配置されていることも重要です。一面ほとんどが窓とあった造りは要注意です。

チェック6 建物の形

平面、立面ともに凹凸の少ない単純な形の方が比較的安全です。凹凸の多い複雑な形や大きな吹き抜けがある建物は要注意です。

チェック7 建物の状態

土台が腐っていたり、シロアリに食われていたりすると非常に危険です。柱や梁のゆがみ、窓やふすまなど建具の立てつけの悪さなども要注意です。

ポイント

簡易耐震診断の実施や耐震改修には補助制度があります。詳しくは、お住まいの市町にお問い合わせください。

室内安全

阪神・淡路大震災でもテレビが飛び、タンスや本棚が倒れてきました。地震が起これば、家具が動いたり、落ちたりしますし、ガラスは割れて怪我をします。家具の固定や配置の見直し等地震が起きても安全か、再度確認をしてみましょう。

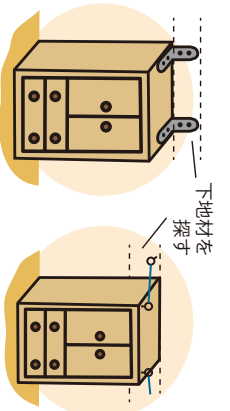
▲室内安全対策のポイント

チェック1 危険箇所の確認



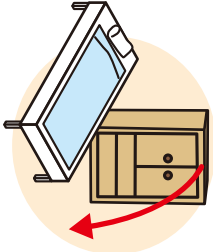
地震が起きたら、家具が倒れて玄関や扉をふさいだり、ガラスが飛び散ったりします。安全に避難できるよう事前に確認が必要です。

チェック3 家具の固定



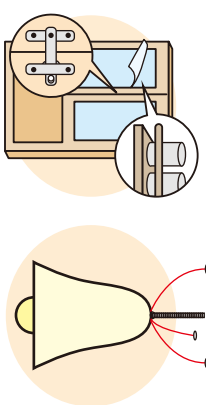
事典など重いものは下の方に収納して重心を低くします。タンスなど家具を固定する場合、L字金具やフイヤなどで固定します。上下に分かれるタイアのものも金具で固定しましょう。

チェック2 家具配置の工夫



不要な家具を処分しましょう。また、倒れても下敷きにならない方向・位置へ配置を変更したり、タンスの上に危険なものを載せないようにしましょう。

チェック4 収納物の飛散防止



食器棚の扉にラッチなど扉開閉器具を取り付けたり、吊り下げ式の照明を補強します。食器棚や窓にガラス飛散防止フィルムを貼って破片が飛び散るのを防ぎましょう。

ポイント

室内安全・備蓄推進員から具体的なアドバイスをしてもらえます。また、神戸市では家具固定専門員派遣制度があります。

食糧等備蓄

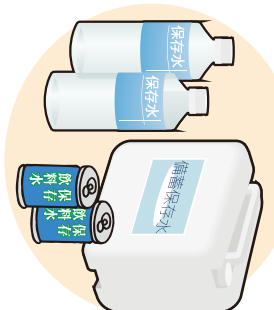
大規模災害が発生したとき、食糧などの支援物資が十分に行き渡るまでには1週間くらいかかります。各家庭で非常用食糧や飲料水を準備しておきましょう。

チェック1 備蓄食糧



そのまま食べられるか、簡単な調理で食べられるもの、賞味期限切れしないよう定期的に入れ替えが必要です。

チェック2 水の備蓄



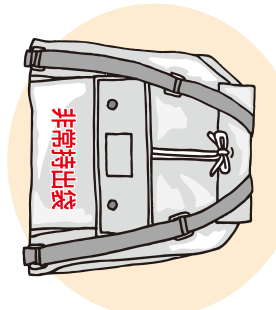
飲料水と生活用水を用意。飲料水は1人1日3リットルが目安。生活用水はポリタンクやペットボトルなどで保存。お風呂の水を残しておくのも便利。

チェック3 生活用品



眼鏡や常備薬など生活に不可欠なものに加え、紙おむつや粉ミルクなど家庭の状況に応じて準備しましょう。軍手やレジャーシート、マッパ・ライター等もいざという時に役に立ちます。

チェック4 非常持出袋の準備



避難の際に持ち出す必需品の準備をしましょう。チェックリストを作成し、持ち出しやすい場所に保管します。

ポイント

食べ物等は買い置きし、賞味期限が近くなったら食べて無駄にしないなど備蓄した物資は定期的な点検が必要です。

避難

津波や豪雨の場合、適切に避難行動をとることが大切です。普段から避難場所や避難方法等を確認するとともに、避難訓練でどのように避難するのか体験しておくことが大切です。

チェック1 避難場所等の確認



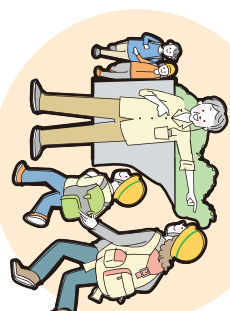
指定された避難場所や避難ルート等をあらかじめ確認しておきましょう。夜間での避難も想定して、側溝やマンホール等危険箇所のチェックも必要です。

チェック2 避難情報の判断



災害時はテレビやラジオ、防災無線等から災害情報を積極的に入手しましょう。災害情報を適切に判断し、避難が必要な場合は、ただちに避難行動をとりましょう。

チェック3 率先して避難



避難する場合は、近所に声をかけるなど率先して避難しましょう。また、一度避難したら戻ってはいけません。

チェック4 避難訓練



実際の災害を想定し、自治会や自主防災組織などが行う避難訓練に参加しましょう。要援護者の避難支援など役割を確認しましょう。

ポイント

夜間の豪雨など、避難場所に向かうより、2階など家の高い所の方が安全な場合があります。どう避難するかあらかじめ家族で話し合っておきましょう。

【お問い合わせ先】

ひょうご安全の日推進県民会議事務局 TEL 078-362-9832（兵庫県復興支援課内）